

---

『GSH』

kasuta-do

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『GSH』

### 【Nコード】

N6415M

### 【作者名】

kasutad o

### 【あらすじ】

春・・・

それは始まりの季節。

飛鳥高等学校に入学した<sup>チアキマコト</sup>千秋誠は

1 - Bのクラスの個性的な生徒達と出会う。

そこから始まった普通の人生では体験できない事を体験した生徒達の物語である。。。。

## 第1話 「始」

春……

俺はある高校に入学した。その高校の名前は飛鳥高等学校。

結構いい学校だと聞き死ぬ気で受験勉強をしたら受かってしまった。

もちろん、中学の時友達だった奴は一人もない。

ああクラスで孤立してしまっただろうしよう……

なぐんでキヤラでもないこと考えてしまった。

いきなりだが自己紹介だ。俺の名前は千秋誠。チアキマコト

結構チャラめで意外にも剣道をしている。ピチ若な16歳だ。以上！

は？誰に自己紹介してるかだつて？

……そんなの言わなくてもわかるだろう？

そして俺は入学式と言う名の睡魔の格闘場へと向かった。

……くそつ！やはり校長の長話恐るべし！！！！

途中で睡魔にK・Oされちまった。

てかここまで簡単に寝れるって校長の長話は子守唄以上なのか？

……あれ？この学校たしか理事長がいるんじゃないか？いややつば校長だけか？

と頭の中で校長をいっぱいにしながらクラス表のある場所に向かった。

てか校長もただでなんでちょっと偉い人は毛が薄いんだ？

うゝむ……あつ着いたか。

えゝとなになに……俺の名前は……

……お、あつた。

俺の名前があつた場所のクラスは

1 - B

「ふむ1 - Bか・・・」

・・・なんかベタな気がする。

1 - Bってなんかベタな気がする。。。。

・・・おわっ！

時計に目をやるとすぐにHRが始まる時間だった。

どつりで人が居ないわけだ・・・って納得している場合じゃない。  
急げ！俺の下半身！！！！

・・・セーフ！！！！時間に間に合ったぜ！！！！あれ結構いけるじゃん！！俺の下半身！！！！

とか思ってたら興奮していつの間にかガッツポーズをしていたみた  
いだ。

我を忘れるとはまさにこのことだな！！！！はははははは！！！！

「うゝるさゝゝゝゝい！！！！！！」

いきなり机をおもいつき叩いて立ち上がった。

あつやべ。俺の笑い声口にだしてたのか。本当に我を忘れてたみた。  
・

と思っていたらいきなり目の前に拳が飛んできた。

俺はそれを最低限な動きでかわす。

「つつっ！！！！危ねゝだろ！！！！」

チツと舌打ちをしてきた。

ああゝん。なんだこいつ！

と顔に目をやった。

そいつは黒髪で肩よりちょっと高いぐらいのショートで  
黒いメガネをかけていてこっちをすごい目で睨んでいた。  
あれだな。こいつ絶対マジメキャラだな。

「五月蠅いんだよ！さつきから！！なにいきなりHR前にギリまにあつたぐらいに来て

笑いだすんだよ！！あれか！お前ここがあれなのか！！」

と言いながらそいつは指で頭をつんつんしている。

あつこいつ無理だわ。

と思いながら俺も反逆に転じる。

「ちよつと我を忘れてただけだよ！！てゆうかいきなり殴ってくるとか危ないだろ！」

「我を忘れている時点で可笑しいぞ！たわけが！！！！」

くつこいつとは友達になれそうにないな。・・・思っていたら

「入学オメデトウー！！！！！！」

なんか教室に入ってきた。

「はい！俺は今回1-Bをうけもつ事になった堂本正一だ！！！！一年間よろしくな！！！！」

テンションが異常に高い担任だな。

「いきなりだが！！自己紹介をして貰おう！！自分の名前と好きな食べ物と言え！！！！」

まじかよ・・・・。てかなぜ好きな食べ物をチョイスするんだ？

「じゃあ最初からいくぜ！！はい！ドーーーーん！！！！」

自己紹介スタート（女子から）

「え〜と私の名前は秋山<sup>アキヤマ</sup>凧<sup>ナギ</sup>です。好きな食べ物は~~~~お味噌汁です！！！！」

なぜお味噌汁の時テンション上げてるんだ??

「私は<sup>アマミヤ</sup>雨宮<sup>メグミ</sup>恵です。好きな食べ物はキャビアとか・・・かな」  
はい！こいつボンボンだな！はい！決定！

「定本瑞希と言います。好きな食べ物は筑前煮です」  
「……微妙だな。好きな食べ物。」

「私は椎名議です。好きな食べ物は……い、いちごですノ」  
なぜ照れた？なぜいちごで照れた？

「長門咲夜。……好きな食べ物は……特やくそう」  
「……大丈夫か……？」

「私は西山静です。好きな食べ物は得にありません。（凜）  
なんか……すごい。」

「I name セナ！ I lake sushi！よろしく！」  
まつまさかの金髪ハーフか！？

心の中のツツコミが連発され女子は終わり男子の番になった。

「……古賀雅之」ガタン  
名前だけ言って座りやがった！？

「賀川修一！好きな食べ物は食べれる物ならなんでもOK！！！！」  
食べれる物ならいいって……なんだそれ。

おっ黒髪の番だ。

「芹沢真だ。好きな食べ物はヨーグルトだ。」  
ぶっつ！！よ、ヨーグルトって……ww

ギロ！！！！  
……。

「陣明蓮。」ガタッ  
座りやがった！！！！

「陣明！好きな食べ物いつてないぞ〜！」

ついに堂本が動いた！！！！

「・・・ふう。・・・好きな食べ物はギョーザの皮」 ガタッ

適当に言いやがった！！！！絶対適当だ！！！！！！

って俺の番か。

「千秋誠とです。好きな食べ物は焼きそばぴゃんです。（噛んでしまった！！！！！！）」

ぷくく。。。。（芹沢）

ちきしょう！！！！言い返せねえ！！！！

てか好きな食べ物言っのちよつとメンタル的に結構くるものがあるんだけど！！！！！！

シゲモトゴウ

「重本豪つてんだ！好きな食べ物はうまい棒だぜ！これからよろしく〜！」

・・・まともな方が・・・？

アガタトオル

「安形亮です。好きな食べ物は・・・まあ特にありません。一年間よろしく願います」

来た！まともな奴がついに来た！！・・・って背ちっちゃ！！！！！！これ150いつてるかいつてないくらいじゃ・・・。

まあその後の人も自己紹介が終わった。・・・正直まともな奴が少ないきがするけど・・・。

そんな感じで高校生活初日は終わった。

これからどうなるんだ？とゆう不安もよぎりそれは見事に命中する

ことになるとは

その時はこれっぽっちも考えていなかった。

## 第1話 「始」(後書き)

今回このオリジナル小説『GSH』を読んでもうございまして。

量も今回はあまり多くありませんでしたがこれから増やしていきます。

更新日はやや遅い時もあると思いますがよろしくお願いします。

## キャラクター説明（女子）（前書き）

たくさんキャラをだしてしまっただ  
説明をしたいと思います。

## キャラクター説明（女子）

まずは女子から！！

アキヤマナギ  
秋山凧

年齢：15歳

誕生日：7月18日

身長：158cm

特徴：髪の色は茶色で、長さは肩につくぐらい。  
ちよつと天然で自分の発言が相手に地雷を踏むことが多々ある。

アマミヤメグミ  
雨宮恵

年齢：15歳

誕生日：5月4日

身長：162cm

特徴：髪の色はクリーム色で、髪の長さは腰に届くぐらいのロング。  
少し金持ちの匂いが漂う気品のあるふるまいをする。

サタモトミズキ  
定本瑞希

年齢：15歳

誕生日：9月2日

身長：159cm

特徴：髪の色は黒で、肩を少しこえるぐらいの長さ。  
演歌や和風料理と結構しぶい物好き。

シイナユズル  
椎名讓

年齢1：5歳

誕生日：11月9日

身長：165cm

特徴：髪の色は黒で髪型はポニーテール。  
男前な性格でみんなからの信頼も厚い。でも少し可愛い物好きとゆう乙女っぽい所もある。

ナガトサクヤ  
長門咲夜

年齢：15歳

誕生日：3月26日

身長：156cm

特徴：髪の色はとても薄い桃色で髪の長さは首を隠すぐらいのショート。  
結構なルックスだが性格はちょっと暗め。ちょっとオタクの匂いがある。

セナ

年齢：15歳

誕生日：1月14日

身長：161cm

特徴：母が日本人で父がアメリカ人のハーフ。  
髪の色は金髪で、髪型はツインテール。  
明るい性格でちょこちょこ喋る時に、英語が入る。  
セナとしか名乗っていないくて本名は不明。

ニシヤマシズカ  
西山静

年齢：15歳

誕生日：10月11日

身長：163cm

特徴：とても『凜』とした風格で

髪の色は黒で髪型は短めのポニーテール。

その風格あるオーラは男でさえもジリつかせる。

## キャラクター説明（女子）（後書き）

ふゝ。

女子だけでも結構居ますね・・・。

こんなに登場人物出して大丈夫かな・・・？

## 第2話「決」 前編

「ふああ」

今、俺は登校中である。

家から学校まで結構な距離があるため早く起床しなければならない。自転車があれば楽なのだが一人暮らしの為あまり買う余裕はないのだ。

一人暮らしは言うておくが大変だぞ？

飯も自分で用意しなければならないし

身の回りの事は全部やらなければならない。

なにより金がある・・・。

金がいっぱいあればちよつとは楽になるかね・・・。

と思いふけていたら俺の真横に突風の用な物が俺の身体をすれすれで通り過ぎた。

「うわっ！！！！？」

情けない声を出してしまったがすぐに前方を見る。だが何もなかった。

「。。。は？」

なんだ？さっきのは本当の風ではないのは間違いないが・・・。

・  
・  
・

つて！早く学校行かねーと！

学校到着

ふゝギリセーフって所か・・・。

俺は安堵と共に自分の席に流れ込むように座った。

あゝゝ！座るとゆう行動がここまですばらしいとは！！

と自分の周りに展開された安らぎフィールドをいきなりダイレクトに壊してきやがった。

「まだ学校が始まって2日目とゆうのに時間ギリギリとは情けないな。千秋！」

くその芹沢か……。

「五月蠅いんだよ！俺の安らぎ空間を破壊したんだから覚悟できてるだろうな！」

「なんだ！自分が悪いとゆうことも分からのか！！」

ああもうこいつ死んでしまえ！まじで！

まあいい。剣道少年だから棒があるほうがいいが素手でも充分いけるぜ！

喰らえ！！！！おれの『怒りの鉄拳』！！！！

その時、一瞬……芹沢の周りの空気が変わった。

身体がざわついて、やばっ！と思った瞬間……

「喧嘩は駄目だよ！！！！」

とある女子が割り込んできた。

誰だこいつ……？

・

「あつ味噌汁！」

「なんで??!!!!!!」

その女子が全力で突っ込んできた。

「秋山風だよ！もう忘れたの!？」

「いやゝ味噌汁しか思いだせん」

「ひ……酷い……」

あつやばい半泣きだ！！そんな女子泣かせたる学校行きにくくなる

だろう！！なんとかするんだ！俺！！

「じよ、冗談！！冗談！！覚えてるよ！！」

「ほっ本当！？」

「本当！本当！」

俺は首を全力で上下に振った。

なんだ。こいつ天然なのか？

「チツ」

と舌打ちを立てて芹沢は自分の席に座った。

ふ〜とホツとしたようにため息を吐いて秋山も自分の席に戻った。

そして俺は全力でため息を吐いた。

「はあ〜」

すると隣の席の女子が

「ため息してると幸せが逃げるぞ？」

と呆れたように言ってきた。

「・・・え〜と」

「椎名譲。譲でいいよ」

「あっうん。分かった」

「そんなに堅苦しくなくてもいいよ。私もあんたの事、誠って呼ぶから」

「・・・はあ」

なんかいい人だな。と思った。

そしてHRが始まった。

休憩中。。。。

暇だな。そう思いながら自分の席でクラスメイトを眺めてみる。

・・・あっ・・・あいつは確か金持ちの匂いがする・・・雨宮・・・  
だっけ？

なんか普通に喋ってるみたいだけど・・・笑う時とかあはははじゃなくて「うふふ」みたいな感じだな

やっぱボンボンか・・・？

一緒に喋ってるのは確か定本とハーフの・・・誰だっけ・・・。

なんか完璧には聞き取れないが会話にちよくちよく英語がはいってるのが分かる。

なんか定本の頭の上？マークがでてるぞ？大丈夫なのか？

うーんとほかには・・・う？

一人でもくもくと本を読んでいるのが二人居る・・・。

一人はあの「凜」としたイメージの・・・西山・・・さん・・・？  
ちようど前の席だから本の中身を見たら・・・

ウツ！なんだ！！この本！！！！計算式ばかりが敷き詰められてやがる！！！！気持ち悪い・・・。

もう一人は・・・確か古賀・・・だっけ？

ちよつと行ってみよう。

本の中身を見ると・・・

ほ。

「お前、囲碁が好きなのか？」

本の中身が分かった理由はルールは分からないが碁盤が本の図としてあつたからである。

「・・・まあ。」

そう。古賀が答えた。

おつ！初めて芹沢以外の男子と会話が成立した！！

なんか・・・感動だ！！！！

そんな感じに感動していたら

パン！！！！

「痛っ！！！！？」

何かが

頭の高等部にあたった。

「すいません!!!」

ある男子が誤つてき……

「あつ。あの時のチビだ」

ピシッ!

「チビって言う、モガ!?!?」

「馬鹿か!お前が相手だったらだいたいああゆう感じの反応ぐらいするぞ!

てかちゃんと誤つたのか?!」

「誤った!」

「なら……いいが……。あつ本当にすいません!!」

「いや、別にいいよ」

そう言ったら二人が一礼しどこかへ行つた。

……そう言えば頭に何が当たったんだ?

ほかには……お!ギョーザの皮が好きな人だ!!確か陣明だっけ?  
話しかけようと思ったが空を見ながらボーっとしていたのでやめ  
いた。

・  
・

あれ?もう一人空見てる奴がいる?誰だ?

と机から身を出して見ると……

……ああ特やくそくの長門……だっけ?

なんだかそつち系のの匂いがするがよく見ると結構なルックスだっ  
た。

ふふんと長門を眺めていると廊下から……

おい!賀川!!今度こそ金返せ!!!!!!

今は無理っていつてるだろうが

!!!!

あれクラスメイトじゃね・・・？

まっそんな感じで今日も終わると思っていたが

「今日」に事件が起きると思っても見なかった。。。。

## 第2話「決」 前編（後書き）

呼んでくださった読者の方ありがとうございました。  
これからも遅いながらも更新するのでよろしく願います。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6415m/>

---

『GSH』

2010年10月21日21時59分発行